

## 令和5年度「市長と語り合う会」について（中西地区）

### 1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
令和5年 8月7日（月）	中西公民館	19:00～20:00	13	3	16

- 市側出席者  
市長、副市長、政策企画局長、総務部長、秘書課長

### 2 会の概要

- 開 会（秘書課長）
  - ・ 会の趣旨説明
  - ・ 出席者紹介
- あいさつと市政運営の説明（山本市長）

#### 1. 令和5年度 施政方針の考え方

##### ・ウィズコロナからアフターコロナへ

5月から感染法上の位置づけが5類になり、季節性のインフルエンザと同じ扱いになっている。少しずつコロナを前提として日常生活を送っていくことになっているが、7、8月の医療機関からの情報によれば、感染者数も多いようで、気を緩めることもできない状況でもある。これから更に感染予防を徹底していくのか、あるいは経済を回す方向へ持っていくのか、悩ましいところではあるが、にぎわいを戻していく事も大事なので、感染状況を見ながら考えていきたい。

##### ・持続可能な未来都市の実現

持続可能なというのは、いろいろな意味がある。一つは、今の気候変動による地球温暖化の原因である二酸化炭素の排出量を減らすということである。市では、照明をLEDに変えたり、太陽光パネルを市の施設の屋根に設置する等行ってきた。また、昨年度には、共用車の内1台を電気自動車に変えたが、今後その効果を検証し、効果があれば台数を増やす事も検討していきたい。様々な形で市が調達する電力を、再生可能エネルギーに切り替えていく事としている。

また、感染症の危険も今のコロナだけでなく、数年に1回こうした感染症が出てくる可能性があるとも言われており、そのような感染症とどう付き合っていくかという事も、人間が持続可能な世界で生きていく上では重要となる。

コロナ渦において、リモート会議やリモートワーク等が普及してきたが、こうした新しい技術を使った行政の在り方を探っていかなければならないと思っている。

市役所においても、新しい技術を使って市民サービスをよくしていく、また行政コストを下げていく事も進めていく。特に本年度から、亡くなられた際の手続きを、出来るだけ1カ所で済むようにする「おくやみ手続サポートサービス」を始めている。今後は、窓口で申請書を書かかないで、職員が聞き取り処理する等、様々なサービスを増やしていきたいと考えている。

また、市の行財政運営を持続可能にしていかなければならない。人口が減ると税収は減り、高齢化率が高くなると福祉に係る歳出は減らない。現状のサービスをより少ない費用で賄うために、いろいろな形で財政が維持できるように図っていく事も重要である。

こうしたこと全てを含め、持続可能な都市に向けて知恵を絞っていききたいし、行政だけでなく、市民の皆様や様々な民間の力を活用し行っていきたいと考えている。

#### 2. 令和5年は様々な節目の年

##### ・JR益田駅開業100周年

大正12年4月にJR益田駅が開業し、この時に山口線が益田駅につながり全線開通した。実は、その年の秋には山陰本線も益田駅までつながり、益田の鉄道の状況が大きく変わった年であ

った。

JRについては、人口減少とコロナ等により利用者が減ったため経営状況が厳しくなり、利用者の少ない地方路線の維持が大きな課題となっている。これまでの鉄道路線は、あって当たり前ではなく、市民の皆様や企業の方々の利用促進に意識を向けていきたいと考えている。

#### ・萩・石見空港開港30周年

平成5年の7月2日に開港したのが始まりで、今年の7月に30周年の記念式典を行った。空の玄関口である空港も、この地域には無くてはならないものだと考えており、利用促進について力を入れていきたい。東京線については、今年の春に2往復運航が令和7年3月まで継続されることが決まった。その後も2往復運航が継続していくよう、市民の皆様や民間企業、周辺市町、県等と連携し取り組んでいきたい。

大阪線は、夏の間だけ限定運航であるが、期間が延びるよう、また維持できるように利用促進に取り組んでいきたい。

#### ・柿本人麿没後1300年

今から300年前の享保8年に1000年忌が行われ、朝廷からも柿本大明神という神様に祀ることが決められたことから、今年が1300年という事になる。地元の神社等で、民間の団体により様々なイベントが計画されており、市としても協力し発信していきたいと考えている。

レジメにはないが、高速道路についても整備が進み、三隅益田道路は令和7年度に開通することになっている。当地区の関連では、令和2年度に須子から小浜までの益田西道路が事業化された。また、小浜から田万川までの益田田万川道路も令和3年度に、久城高津間も今年度事業化され、今後高速道路の状況も変わってくる。こうした状況の中、様々な節目を活かしながら市の発展のため尽力していきたいと考えている。

#### ○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 地球温暖化対策について
- ② 市道の草刈りについて
- ③ ファクトリーパークについて (1)
- ④ きのこハウスについて (1)
- ⑤ 小学校の校庭について
- ⑥ プールの使用について
- ⑦ きのこハウスについて (2)
- ⑧ 定住促進について
- ⑨ ファクトリーパークについて (2)

#### ○ 閉会 (秘書課長)

# 令和5年度「市長と語り合う会」

〔会場 中西公民館 開催日時：令和5年8月7日（月）19:00～20:00〕

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 地球温暖化対策について 市の中に温暖化対策室ができた。また、新聞で電気自動車のステーションを市の施設に設置するとあった。そのことにより市の財政に対するメリットは何か。また、地球温暖化に対する配慮とか環境対策室とどのように関連していくのか。最も優先すべきことは、地球温暖化対策とそれに伴う経済対策で、これらが両輪でいく事が必要である。</p>	<p>① 本年度、環境衛生課の中に、カーボンニュートラル推進室を設置した。また、先月、関連企業と連携協定を結び、市の施設に電気自動車の充電ステーションを設置する事になった。その仕組みは、当該企業が無償で設置し利用者から充電代金を頂き、代金の一部は市に入り、市の負担はかからないことになる。電気自動車が環境にいい理由は、地球全体の二酸化炭素排出量の削減に繋がっていく事である。岩国市、柳井市の3市で進めていくが、県内更には全国にも広めていきたい。環境に良い施策であるとともに、財政にも負担のない施策であると考えている。</p>
<p>② 市道の草刈りについて 1m当たり10円の単価で契約しているが、10年前と金額が変わっていない。現在ガソリン代も高騰しており、少しでも上げていただきたい。高齢化も進み継続が難しくなっておりその辺も考慮してほしい。</p>	<p>② 草刈りについては、他の地区でもよく意見が出ており、委託料について、請け負うには厳しい金額であると伺っている。また、そもそも高齢化により人手がいなくなっていると聞いている。大変大きな問題で、今後美化活動をどのように維持していくか検討しているところである。価格高騰に見合った単価にすることが最優先と考えているが、喫緊の課題として検討したい。</p>
<p>③ ファクトリーパークについて (1) 現在11社が入っているが、半分以上はまだ売れていない。企業のみが進出だけでなく福祉的な事業も考えていくべきではないか。未分譲地は、草木が覆い茂っておりそういう状態で売れるのか。現在、益田西道路の工事が進みインターチェンジも近くにできる予定あり、今が好機である思う。トップセールスを行ってもらい、産業振興の拠点となるよう取り組んでほしい。</p>	<p>③ 企業誘致については、近年入った企業が、工場に続き研究施設を増設され、今後さらに生産拡大が期待できる状況である。会社数は増えないが、分譲率は増えている。他にもいくつか案件はあり、可能性のある企業については、直接伺い誘致活動に努めているところである。県の取り決めとして製造業に限っており、現状においては決められた業種にしばって誘致活動を行う。</p>
<p>④ きのコハウスについて (1) きのコハウスが、民営化されると新聞で知ったが、今後どうなるのか。就労されている方の雇用や施設等、全般的にお考えをお聞きしたい。</p>	<p>④ 第3セクターの障がい者就労支援施設として市が株式を保有していたが、経営者より民営化し機動的に運営するため株式の譲渡の要請があり、市としても決定した。その都度議会で説明しご理解を頂いている。雇用については、農福連携等により維持できるよう考えて頂いている。第3セクターでなくても市の所有施設を指定管理するので、これからも精査する。障がい者の就労支援の観点からも関わっていく。</p>
<p>⑤ 小学校の校庭について 新しい小学校の校庭は、雨が降ったらすぐには使えない。以前は翌日には運動ができた。学校の先生や生徒も苦慮している。子供達が体を動かすという事は大事ではないかと思う。</p>	<p>⑤ 小学校の運動場の水はけがよくないという事について、状況を確認し何らかの解決方法がないか教育委員会と協議したいと思う。</p>

⑥ プールの使用について  
プールはあるが、補修に費用が掛かるため手が回らないと聞いた。できれば体を鍛えるという事に尽くしてほしい。

⑦ きこのハウスについて (2)  
もともとは柏木菌茸という会社が障害者を雇ってやろうという事で始まった。もう少し将来的な展望を見ながら市は入っていくべきであった気がする。

③ 定住促進について  
田も畑もあり、海も山も川もある。メディア等も活用し益田市の良さをもっとアピールして、空き家等も有効利用しながら都会からの人口流入を促す必要があると感じている。

⑨ ファクトリーパークについて (2)  
工業団地に福祉的な事業が入れない事、また山陰道のインターチェンジができることによる道の駅の建設等の要望に伴い、ファクトリーパークに隣接する民地側にその場所ができないか検討したが、地籍調査が入っていないため境界確認等が困難であることから止まった。そういった障害を一つでも解消して益田市を立て直してほしい。また、25年経過した今の現状を把握し、インターができる意味合いも含め、県と連携して今一度将来像を考えた産業振興を行ってほしい。

⑥ 小学校のプールについては、一つ一つ維持するのではなく、民間のプールの施設を活用していく方向にしている。1つは維持管理経費等の財政的な理由もあるが、大きな理由としては、担任の先生すべてが水泳の専門家として児童に指導できるわけではなく、民間の専門の指導者に指導してもらう方がいいのではないかとの判断である。民間施設の経営の安定にも繋がるので、官民の連携で行っている。

⑦ 難しい判断であったが、民営化が決まり民間の努力で様々な事業を広くされているので、事業が軌道に乗ることを期待しているし、雇用の維持については、市の福祉の一環なので、協力や支援をしていきたい。

⑧ 現在も、様々な広報活動を行っており、実際にIターンされた方もおられる。意欲のある、また地域にプラスの波及効果をもたらすような方等が来ていただけるよう、今後も発信方法等を工夫し、より人口が増えるよう努力していきたい。

⑨ 企業誘致については、県と一体となって進めている。県も規程の中でされていることなので、市としてもそれを破ってまでは出来ないが、力を入れて行っているところである。地籍調査も遅れているが、毎年予算を確保し少しずつ進めている。特に高速道路が建設される個所は、中心的に進めている。